

元気アップ 主体会

2016. 5 Vol.40

「憩いの畑」が平成27年9月に完成



「憩いの畑」

この畑はリハビリの一環として患者さんが主体となり栽培しています。季節を感じ草花や土に触れることで、意欲の向上、ストレスの軽減など様々な効果があります。



も く じ

「憩いの畑」が平成27年9月に完成	1	健康への窓	5
特集 小山田記念温泉病院リハビリテーション	2	三重県透析研究会学術集会	6
研究会・研修会報告	3	施設行事	7
新任Dr紹介	3	部署紹介 主体会病院・小山田記念温泉病院検査部	8
新入職員紹介	4～5	元気アップコーナー・編集後記	8

運動に障害のある人たちの環境支援機器「SPIDER」が当院に導入されました。

SPIDERとは、ヨーロッパで開発されたもので、重力の影響を減らし、身体が不自由でも空間の中で自由に動くことができる支援機器です。

SPIDERはゴム紐と固定するための枠で構成されており、身体から外に向かって張られたゴム紐がクモの巣のように見えるところから名づけられました。

身体に不自由がある人たちは、重力のある中で身体を安定させることが苦手で、身体を硬くして安定性を求めます。SPIDERにより、身体を安定させることが出来れば、自分の力で身体を楽に動かすことができます。その中で立ち上がりや立位の練習だけでなく、自分のやりたいこと(ジャンプ、太鼓、キャッチボール、ボーリングなど)を楽しむことができ、自信に繋がり心の発達にも影響を及ぼします。

障害の程度に関わらず、子供から高齢者まで誰でも使用することができます。

(小山田記念温泉病院 理学療法士 西口 大貴)



リフト付き個別浴槽新設

小山田記念温泉病院回復期リハビリテーション病棟にリフト付き個別浴槽を新設しました。このお風呂ができたことで、患者さま一人ひとりの自立度とご要望にお応えした入浴方法が可能となり、患者さまからも大変喜ばれています。

今後も、患者さまに寄り添った看護・介護を提供していけるよう努力していきます。

(小山田記念温泉病院 回復期リハビリテーション病棟 看護師長 下地 かすみ)



第16回主体会 リハビリテーション研究会を終えて

小山田記念温泉病院 理学療法士 佐藤 貴之



第16回主体会リハビリテーション研究会が平成28年2月20日に開催されました。毎年開催される小山田記念温泉病院、主体会病院合同の研究会で、リハビリテーションスタッフ約150名が参加しています。今年は7演題の研究発表が行われました。

私はその中の1演題として「退院前後における身体活動量の変化と心身機能・生活範囲の関連性」について発表させていただき、審査員賞をいただきました。当院回復期病棟を退院された患者様の中には、活動量が減少している方がいらっしゃることに気がきました。そこで、「活動量に影響がある要因は何か」と疑問に持ったことが研究を始めたきっかけです。結果として、入院中を通して集中的にリハビリを行い、全身的な筋力をつけ、安定して歩くことが活動量に影響していることが分かりました。

今回得られた結果や知識を患者様に還元し、担当させていただいた患者様がより良い生活を送ることが出来る様、リハビリテーションを通じてご支援できればと考えています。

平成27年度三重県がんにおける 質の高い看護師育成研修に参加して

小山田記念温泉病院 4A病棟 看護師 早川 美紀

研修での学びは大きく、自己の看護の振り返りにもなりました。がんと告知されたその時から患者様は様々な苦痛を抱えながら、がんと共に生きておられます。体の痛みなどの身体的な苦痛に加え、不安や絶望感などの精神的な苦痛、役割の喪失や経済的な負担などの社会的な苦痛、そして、なぜ自分ががんになったのか?などのスピリチュアルな苦痛を抱えています。これらの苦痛は相互作用しており、看護の基本である患者様の話を傾聴するということの大切さを改めて感じました。患者様は様々な意思決定の中で葛藤を抱え、がんに向き合っていることや、医療者側が共に患者様をケアする存在として捉えがちな家族自身も、ケアを必要としている存在であることも大きな学びでした。

当院では血液内科医が常勤しており、化学療法を受ける高齢者の患者様もみえます。化学療法による副作用は多様で、感染予防など患者様自身に気をつけていただかなければいけないことがたくさんあります。様々な苦痛を抱えながら治療を受ける患者様のために、患者様自身が副作用に対処できる力をつけていただけるよう、病棟看護師の知識向上に取り組んでいます。安全安楽な医療の提供を基本として、今後は、緩和ケアや家族ケアへの充足にも取り組んでいきたいと考えています。

介護事例報告会

主体会病院 介護長 野堀 加久代

毎年、小山田記念温泉病院・主体会病院の介護士が合同で研究発表会を開催しています。本年は第15回を迎え名称も事例報告会とし、内容も身近な問題を症例に上げ、日々取り組んだ事を発表しました。今回の報告会では、発表部署それぞれが、患者様への接し方や喜ばれる介護実践についてわかりやすくまとめられ素晴らしいテーマに取り組んだ発表となりました。中でも優秀賞に選ばれた主体会病院療養病棟の「安心安全安寧への介護の提供～二人体制へのお互つ交換～」については、患者様に安心してもらえる介護の提供及び安全な介護を行う事で介護力強化につながるものでした。

入院生活において患者様が願われる事は、安心して任せられる介護であると再確認しました。事例報告会に参加した介護士の皆さんが「介護とは何か」を考えられる発表会になるよう今後も取り組み、素晴らしい介護士を育成していく会になる事を願います。

新任 Dr 紹介

小山田記念温泉病院
神経内科

川合 圭成



平成27年11月より小山田記念温泉病院の神経内科に勤務させていただいております。平成9年に名古屋市立大学を卒業し、中部労災病院で研修し、平成13年より名古屋大学神経内科で、主として神経変性疾患の認知機能に関する研究をしていました。半年間の昭和大学への国内留学を経て、平成23年10月より国立長寿医療研究センターに移動し、もの忘れ外来での業務を行っておりました。市立四日市病院を経て、神経変性疾患への興味から、小山田記念温泉病院へ勤務させていただいております。

主として認知機能への興味を持っており、最近はもの忘れ外来へのかかりが多くなっていました。高齢化に伴い、患者さんが増加してきており、また皆の意識が高まってきたことで、比較的早期から受診される方が増えてきており、当院でも患者の増加が予測されます。また、今まで慢性期の病院への勤務の経験はなく、神経変性疾患の慢性期に腰を据えて取り組む機会はありませんでした。今後は慢性期の神経変性疾患の方や認知症性疾患の方の診療に頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

新入職員 紹介

入社式

平成28年3月22日(火)

新入社員数 計 42名

小山田記念温泉病院 20名

主体会病院 21名

みえの郷 1名



主体会病院 新入職員



小山田記念温泉病院 新入職員

喜畑 敬介 薬剤師(主体会病院)

今年度より、薬剤師として主体会病院にて勤務させて頂くことになりました。

諸先輩方から多くの事を学ばせて頂き、一人の医療従事者として、また一社会人として日々研鑽をつんでいくことで薬剤師として患者様とご家族様へより良い医療を提供していきたいと思っています。皆様どうぞよろしくお願いします。

刺野 智佳 看護師(主体会病院)

今年度より、看護師として主体会病院で勤務させて頂くことになりました。

学生生活を終え、社会人としての自覚を持ち、諸先輩方から多くのことを学び、知識と技術を磨きながら皆さまに信頼していただける看護師になれるよう日々精進したいと思います。ご指導よろしくお願いします。

山際 亜衣 介護福祉士(小山田記念温泉病院)

今春より介護福祉士として小山田記念温泉病院で勤務させて頂くことになりました。小学生からの夢であった介護福祉士として、小山田記念温泉病院で勤務させて頂けることを嬉しく思っております。先輩方から多くのことを学ばせて頂き1日でも早く仕事を覚えていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願い致します。

奥山 瑞希 理学療法士(小山田記念温泉病院)

今春より、理学療法士として小山田記念温泉病院で勤務させて頂くことになりました。

経験豊富な諸先輩方と共に、充実した職場環境の中で働くことができることを大変嬉しく思っております。患者様1人1人に適した医療を提供できる理学療法士になれるよう日々精進していきたいと思ひます。何卒よろしくお願い致します。



誤嚥性肺炎

介護老人保健施設 みえの郷
医師 前田 一範

介護老人保健施設(以後老健と呼ぶ)において、老人に起こりやすい病気として転倒骨折、誤嚥性肺炎、尿路感染などがあります。今回はそのうち直接生命に関わると思われる誤嚥性肺炎についてお話したいと思います。

私たちの働いている老健みえの郷は、ベッド数84床で、現在の入所者数は82名です。そのうち食事介助をしている方は31名、37.8%を占めています。そのうち16名、19.5%が完全介助となっています。食事介助を行っている入所者は誤嚥される可能性が高くなっていますが、それだけでなく、自力摂取をされておられる方でも誤嚥される方がみられます。脳出血や脳梗塞後の球麻痺による、嚥下障害の方です。また胃瘻などの経管栄養の方にも誤嚥性肺炎はみられます。唾液の誤嚥、胃内容物の逆流によるものなどです。肺炎は高齢者にとって命に関わる、大きな危険です。医師をはじめ、食事介助者である看護師や介護士が注意するのは当然のことですが、誤嚥はなくなりません。肺炎になった場合は、抗生物質で治療が行われますが、完全ではありません。みえの郷従事者一同、これからも頑張っ参ります。



三重県透析研究会学術集会

第53回の三重県透析研究会学術集会が鈴鹿医療科学大学にて開催されました。

川村直人院長が担当幹事となり医療法人社団主体会透析室職員で、運営を行いました。

三重県内、50施設あまりから医師、看護師、臨床工学技士など、様々な職種が集まり参加者400名以上、演題数も過去最高の47演題と大盛況となりました。

当法人からは臨床工学技士2演題、理学療法士2演題、作業療法士1演題の発表を行いました。



主体会病院 院長 川村直人



理学療法士 平野裕三

主体会グループ からの演題発表

「MST結成3年間における傾向と今後の課題」

主体会病院 臨床工学技士 戸谷 秀之

「動脈チャンバー流入部の逆流長を用いた脱血圧・実血流監視の試み」

小山田記念温泉病院 臨床工学技士 伊藤 寛則

「狭心症を合併した慢性透析患者に対して透析中運動療法を実施した5例」

主体会病院 理学療法士 平野 裕三

「回復期リハビリ病棟における透析患者リハビリ介入量確保に向けた取り組み」

主体会病院 理学療法士 羽賀 敦子

「透析中の運動療法が自律神経機能に与える影響」

主体会病院 作業療法士 野田 佑太



受付の様子



第53回三重県透析研究会運営職員

昨年度末より、新しい 3テスラのMRIが 稼働を始めました。

主体会病院のMRIがフィリップス社の3T-MRIに新しく更新されました。

特徴は高磁場により信号が強く、高分解能の画像がとれる事です。

特に、手関節の様な小さな部位がきれいに撮影出来ます。頭部では細い脳神経もきれいに描出出来ます。



また、心臓も撮影出来るようになりました。今までの検査で検出できない小さな無症候性心筋梗塞もMRIでは明瞭に描出出来る様になりました。

肺野以外は、MRIの画像診断に果たす役割は非常に大きく、MRI無しでは診断出来ない時代になりました。

今後、皆様の診療に役立つよう、努力するよう努めてまいります。

(主体会病院 画像診断部 部長 中村和義)



施設行事

節分 2月3日(水)



みえ川村老健

ケーキバイキング

10月21日(水)

昨年の10月に好評だったケーキバイキングを
本年4月にも実施決定!!
どれにしようかな?お楽しみに!



今年の鬼はダイエツト?!して筋肉質の
健康体に変身!!いかがでしょう?
無病・息災 今年も元気で過ごしましょう。

みえの郷



豆まき

2月3日(水)



豆に見立てたボールを使って鬼退治!
居室にも鬼が出没。
皆さん笑顔で豆まきされました。



よしよし…と優しい利用者さまに、
鬼も観念した様子。

ひな祭り 3月2日(水)



ひな祭りの飾りを使ってゲームをしました。
みんなでハイチーズ!



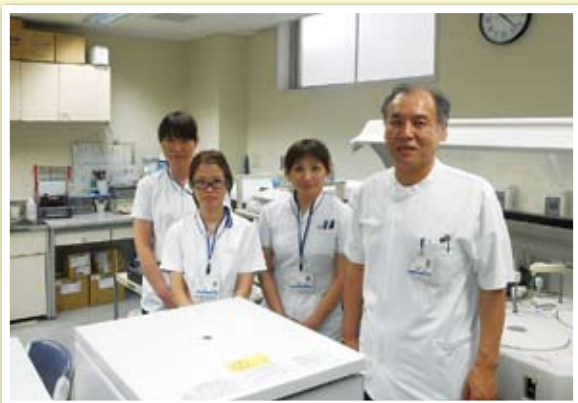
一般棟では折り紙でおひな様を作り
ました。職員と一緒に制作中…



できあがり!!

部署紹介

現在、主体会病院4名・小山田記念温泉病院7名の臨床検査技師がいます。検査と言っても多種多様で血液や尿を扱う検体検査、心電図や超音波検査・脳波など直接患者様に対して行う生理検査、感染の原因などを調べる細菌検査、細胞について調べる病理検査などに分かれています。



主体会病院 小山田記念温泉病院 検査部



患者様をお待たせしないよう迅速・正確な検査を常に心がけています。検査について少しでも気になることがあればいつでも声をかけていただけたらと思います。

小山田記念温泉病院 検査部 岩田蓉依



菰野町 伊藤政教氏より 車いす寄贈

このたび菰野町の伊藤政教氏より、車いす2台を寄贈していただきました。

1月28日には寄贈式を行い、スタッフが見守る中、新しい車いす2台が小山田記念温泉病院浜口院長に手渡されました。そのあと院長より伊藤氏へ感謝状の贈呈が行われ、大切に有効活用することを誓いました。本当にありがとうございました。



編集後記



暖かくなってくると自転車で走り回りますが、最近は近場を散歩するようにゆっくり走るようにしています。普段の生活では気付かない景色や町並みを見ることが出来ますし、時にはヘンな物を発見する事も。何気なく住んでいる町も新鮮に見えてきます。

ちなみに、自転車で散歩する事を「ポタリング(pottering)」と言うそうです。
(小山田記念温泉病院 施設管理課 水上達雄)